

隅田川東岸の開発



(明暦) 江戸大絵図(部分) あさくさ川兩岸 公益財団法人三井文庫所蔵

図の中央を流れる「あさくさ川」、すなわち隅田川両岸部分を切り取った図になります。この図は隅田川の東側、江東地域を描き込んだ最も古い江戸図ということもできます。

明暦大火以前の段階で、江戸の中心部における武家屋敷はすでに飽和状態に達しており、その問題の解消を図るために新たな土地の造成が進んでいました。本所・深川地区の初期開発のようすがこの絵図から確かめられます。

また上の図の左上部には寺院を示す白地の土地区画の中に「西門跡」と書かれています。大火後に浜町から移転した西本願寺です。当初、西本願寺の移転先は浅草でしたが、地質が悪く江戸の門徒が参詣するには遠いことから西本願寺が難色を示し、結局木挽町の手を埋め立てて造成された「築地」への移転が認められたのです。